

# 緑を守る

# 松くい虫をくい止めろ!!

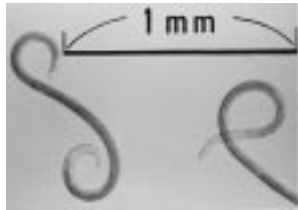
海岸の防風林などとして松は昔から私たちの生活と深く関わってきました。しかし今、この松を枯らす松くい虫の被害が深刻です。松林のある美しい風景を残すため、松くい虫の被害をくい止めなければなりません。



松くい虫の被害を受けた松は、青々としていた葉が枯れて、残らず赤褐色に変色します(写真内)。海岸線や山林の松だけではなく、市街地でも被害が報告されています。



## 松くい虫の正体



マツノザイセンチュウ



マツノマダラカミキリ

(撮影・元国立森林総合研究所の遠田暢男氏)

松くい虫の正体は、マツノザイセンチュウという肉眼では見えないほど小さな線虫の一種。数百匹で松の若木を枯らしてしまう強い病原力を持っています。マツノザイセンチュウは、松の樹皮を食へ産卵するマツノマダラカミキリの体内に寄生して移動します。カミキリ一匹に寄生するマツノザイセンチュウは、およそ一万匹といわれます。伝染した松は一年のうちに枯れてしまうほど急速に広まる病気で、マツノマダラカミキリの活動とともに被害は拡大しています。

## 松が守る生活

**その** 江戸時代の栗田定之丞ら先人の努力で海岸線に植えられた松林。それによって、田畑や家屋を、砂や風、潮の被害から防ぎ、私たちの生活が今もなお守られています。

**その** 松は厳しい環境でも育ち、地中深くまで根を伸ばすという特徴があるので、地盤がゆるんだときに山崩れを防ぐなど重要な役割を果たしてくれます。



## こんな松がアブナイ

松くい虫による被害は、木全体の葉が赤くなることでわかります。海岸の松林などで見かける葉の一部が潮風の影響で枯れた症状と違い、木の全身にわたって枯れたものが松くい虫が伝染した証拠です。秋田に松くい虫の被害がでたのはおよそ18年前。

特に平成9年以降、被害を受けた松が急増しています。

健康な松に被害が及ぶのをくい止めるため、松枯れている木は、速やかに伐採駆除などの処理をしなければなりません。

### 秋田市の松くい虫防除の実績

